

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

LEC 東京リーガルマインド大学院大学（略称：LEC 会計大学院。以下、「本学」という。）は、理論と実務の融合を志向した教育研究によって、高度な会計専門知識と実践力、職業倫理観を兼ね備えた質の高い会計専門職業人を輩出し、もってわが国の経済社会の発展に貢献することを目的として開設された会計専門職大学院である。

本学の最大の特色は、現に会計・税務に携わる専門職をはじめとして、企業・団体の財務担当者や経営責任者、公務員等、広範な社会人層を主たる学生像として想定し、これらの社会人に対して、より高度で実践的な会計専門教育を提供することを理念としてきた点である。この基本的理念のもとに、固有の目的・教育目標を掲げて教育・研究活動を行っている。

前述の通り、開設以来本学が重視してきたのは現職の社会人であり、社会人が働きながら学ぶための環境を提供することである。具体的には、まず全ての授業を平日夜間と土日のみに配置し、交通至便な東京都千代田区内の1キャンパスで実施している。目的別の明快な履修カリキュラムを編成し、講義映像収録による欠席時の補習制度やWEBを用いた情報共有方法を充実させるなど、働き盛りの社会人がキャリアを中断せずに学べる環境を整えるために、最大限の努力を払っている。実際に、在学生に占める社会人の割合は例年9割を超え、2016（平成28）年度は94.5%であった。これは同年度の会計専門職大学院全体の平均42.2%を大きく上回り、本学の際立った特色となっている。

こうした社会人学生のニーズに応えうる実践的な教育を行うため、本学は公認会計士、税理士、弁護士など、経験豊富な現役の実務家教員を多数任用している。あわせて、実務にも造詣の深い研究者教員とのコラボレーションによる「共同授業」を積極的に導入して、文字通り「理論と実務の融合」を実現する、特色ある教育活動を行っている。

さらに、修了後に専門職として一層の飛躍を実現するために不可欠な要素として、本学が重視しているのが「論理的思考力・表現力の養成」である。これは特に修士論文指導において端的に表れている。本文で述べる通り、学生のほとんどが専門職を目指す社会人であることを前提に独特の指導システムを導入しており、一般的な研究型大学院の論文指導と外形は異なるものであるが、時間に制約のある現職の社会人であっても、調査・研究と執筆のプロセスを通じて確実に「論理的思考力・表現力の強化」を達成し、質の高い修士論文を完成できるようにするための基盤を整えている。

近年のICTの発展はますます著しく、多くの分野でICTによる業務代替が加速していくと考えられる。会計・税務は特にICTとの親和性が高い分野であり、今後、公認会計士や税理士などの資格取得のみをもって専門職の職務を全うすることは困難になっていくと予測される。誰もが社会の変化を見据えて学び続けなければならない時代にあつて、「理論と実務の融合」「論理的思考力・表現力」に対する意識は、専門職が自らの付加価値を高め、社会から求められる人材であり続けるための重要な基盤となるものである。これを志向した教育・研究活動を行い、発展させていくことが、社会人のための会計専門職大学院たる本学の務めであると考えている。

Ⅱ. 沿革と現況

1. 本学の沿革

本学は、2004（平成 16）年 4 月に、構造改革特区制度を用いたわが国最初の株式会社立大学「LEC 東京リーガルマインド大学」として設立された。設立当初は 4 年制学部（総合キャリア学部）のみであったが、翌 2005（平成 17）年 4 月に、会計分野での高度専門職業人養成を目指して、大学院（専門職学位課程）高度専門職研究科会計専門職専攻を設置し、学部と大学院を有する大学となった。

大学院設置にあたっては、会計・経営等の各専門分野における著名な研究者を専任教員に招き、主に公認会計士の育成と再教育を目指した。その後、2012（平成 24）年度末に、在学生全員の卒業に伴って総合キャリア学部を廃止し、2013（平成 25）年 4 月からは大学院大学として正式名称を「LEC 東京リーガルマインド大学院大学」と改め、会計専門職大学院として再発足した。

一方、開設から現在までの間には、公認会計士試験制度改革とこれに伴う公認会計士志望動向の変化、2008（平成 20）年のリーマン・ショックに始まる世界的な不況などの外部環境の変化、並びに諸般の事情により、本学も志願者数の減少に直面した。

このような状況を踏まえて本学は、より広範に、会計・税務の実務に携わる現職社会人の再教育（リカレント教育）に重点を移すこととし、この機能に焦点を当てて、大学の目的と教育目標の再検討、および教育課程の再編成に取り組んだ。具体的な施策として、2009（平成 21）年から 2010（平成 22）年にかけて租税法分野科目を拡充し、2010（平成 22）年度には租税法分野の修士論文指導を開始した。さらに、2015（平成 27）年度には税法・会計の履修コース制を導入した。また、大学院開設当初に著名な教員を多数招聘したことによる専任教員の年齢バランスの問題に対し、教員組織の再編に取り組んだ。

これらの取り組みにより、一時は危機的水準にあった学生募集状況は大幅に改善した。2011（平成 23）年度以降は継続して収容定員を充足し、これに伴い収支バランスも大幅に改善されている。

また、修士論文指導の具体的成果として、国税庁における研究認定者（修士論文によって税理士試験の一部科目免除認定を受けた者）は、税法分野で 90 名を超え、会計分野との合計で 100 名を超えている。

年月	事項
2003 年 2 月	LEC 東京リーガルマインド大学 設置認可
2004 年 4 月	LEC 東京リーガルマインド大学 開学
2005 年 4 月	大学院高度専門職研究科会計専門職専攻（専門職学位課程）開設
2009 年 6 月	総合キャリア学部の次年度以降の学生募集停止を決定
2010 年 4 月	租税法分野の修士論文指導を開始
2013 年 4 月	専門職学位課程のみを置く大学院大学となり、大学の名称を LEC 東京リーガルマインド大学院大学に改称
2015 年 4 月	履修コース制（会計コース・税法コース）を導入

2. 本学の現況

- ・ 大学名

LEC 東京リーガルマインド大学院大学
(開設時名称：LEC 東京リーガルマインド大学)

- ・ 所在地

東京都千代田区三崎町 2-2-15

- ・ 学部構成

学 部：なし ※2004（平成 16）～2012（平成 24）年度まで 総合キャリア学部設置
大学院：高度専門職研究科 会計専門職専攻 ※2005（平成 17）年度～現在

- ・ 学生数、教員数、職員数

学生数：141 名

教員数：専任教員 13 名、兼任教員 17 名

職員数：専任職員 5 名、兼任職員 5 名 ※いずれも 2017（平成 29）年 5 月 1 日現在